

第3回 国有林モニターアンケート 結果概要

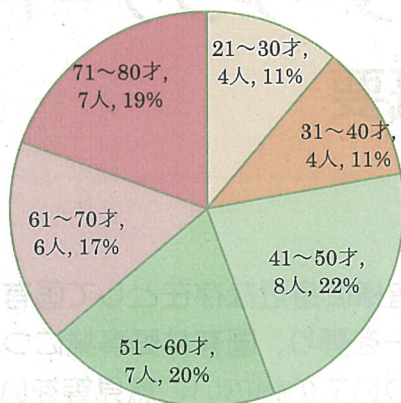
国有林モニター制度は、より多くの国民の皆様身近な存在として国有林を感じていただけるよう、広く一般から国有林モニターを募り、国有林野事業についての理解を深めていただくと同時に、国有林野事業についての幅広いご意見等をいただき、これらのご意見を管理経営に役立てることで、「開かれた国有林」にふさわしい管理経営を行うことを目的としています。

今回、第3回国有林モニターアンケートを実施し、国有林モニター36名中31名の方からご回答をいただきましたので、その結果について報告します。

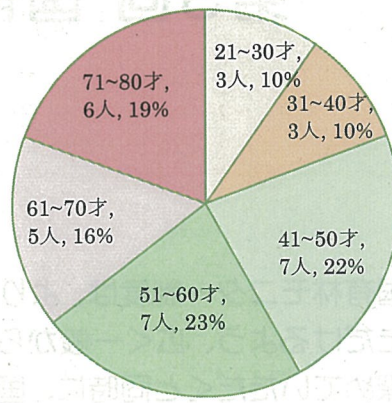
平成25年2月

国有林モニター基本情報

〈年齢層別割合〉

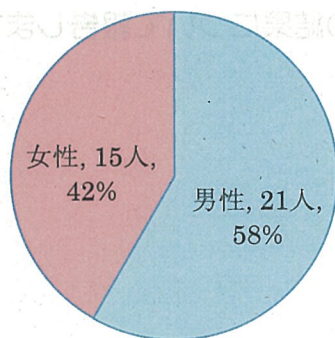


国有林モニター（36人）

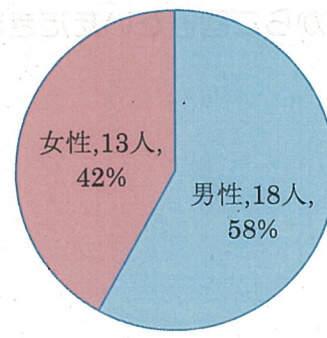


第3回アンケート回答者（31人）

〈男女別割合〉

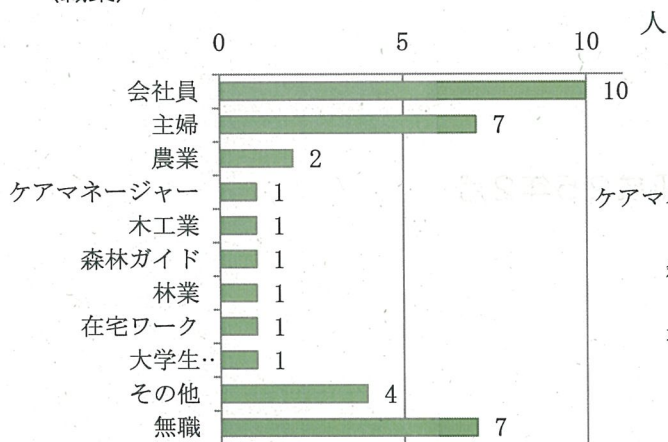


国有林モニター（36人）

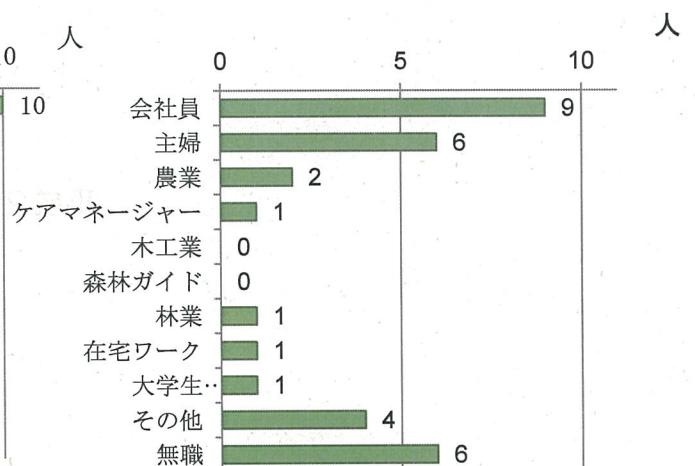


第3回アンケート回答者（31人）

〈職業〉



国有林モニター（36人）

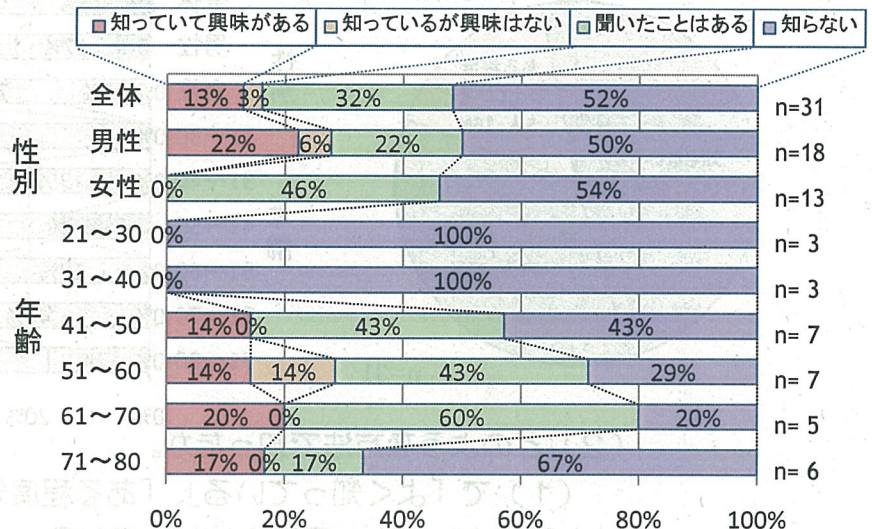
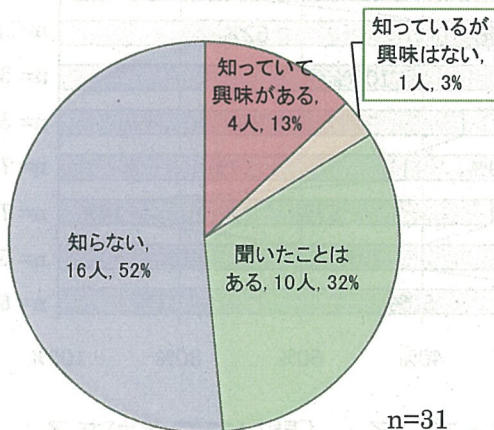


第3回アンケート回答者（31人）

森林・林業の再生に向けた取組について

問1 低コスト・高効率作業システムの普及・定着について。

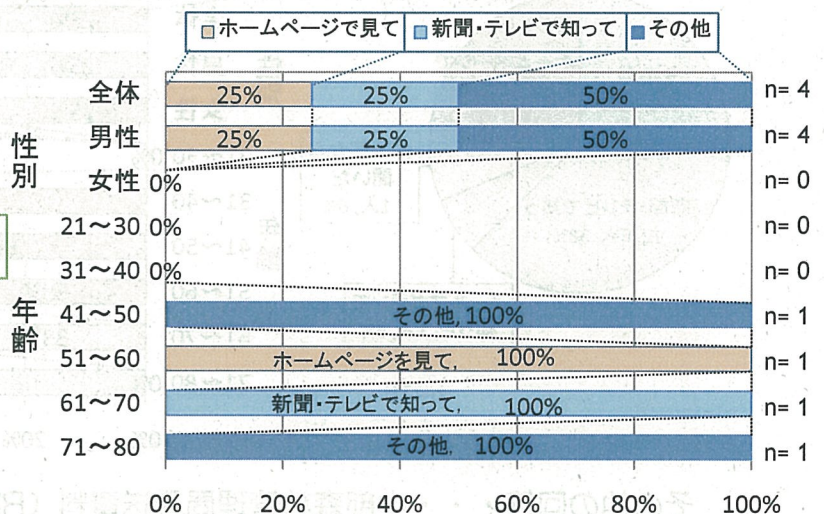
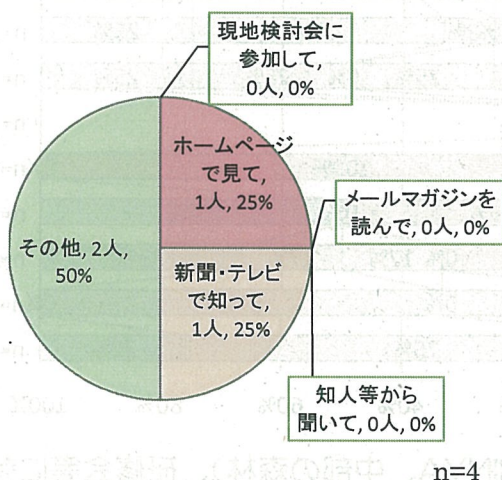
(1) 低コスト・高効率作業システムの普及・定着に向けて実施している現地検討会を知っているか。



(「n」は回答人数を表す。また、計の不一致は、四捨五入による)

(2) どのように興味を抱くに至ったか。

(1) で「知っていて興味がある」と回答された方を対象。



その他の回答・・・森林組合たより、自分たちの組合で実施しているから。

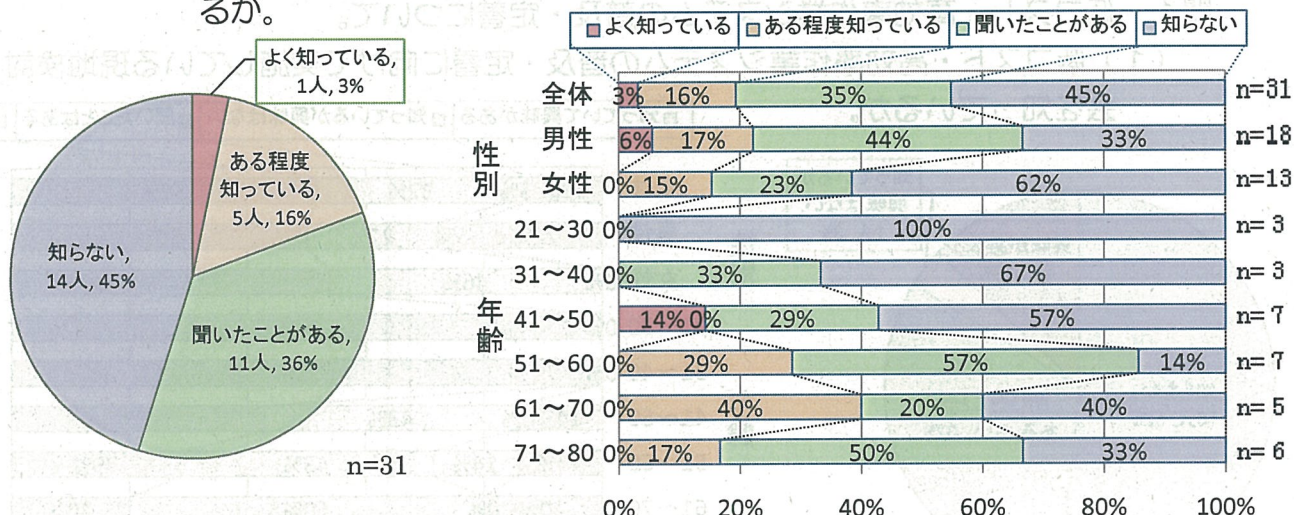
(結果)

(1) については、「知っていて興味がある」が4人(13%)、「知らない」が16人(52%)でした。年齢別では、21～40才の年齢層に全く認知されていませんでした。

(2) については、「ホームページ」という広報活動で知った方が1人(25%)、「新聞・テレビ」が1人(25%)でした。「森林組合たより」「自分たちの組合で実施している」は、それぞれ1人でした。

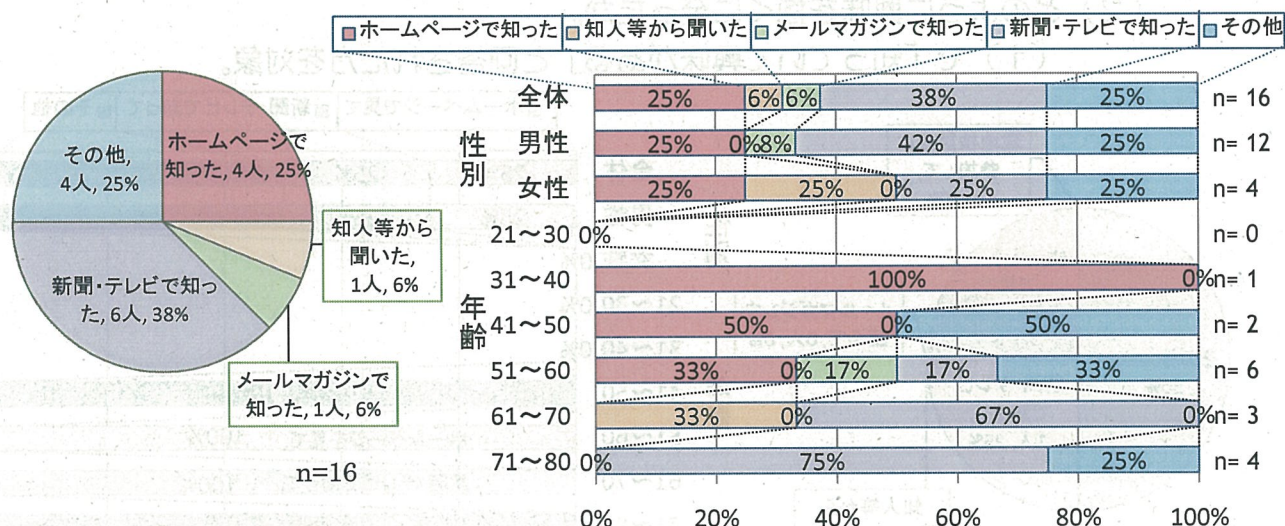
問2 民有林・国有林が連携した計画的な森林整備の推進について

(1) 民有林と国有林が協定を締結している森林共同施業団地について知っているか。



(2) どのような方法で知ったか。

(1) で「よく知っている」、「ある程度知っている」、「聞いたことがある」と回答された方と回答された方を対象。



その他の回答・・・中部森林管理局発送資料 (RINYA、中部の森林)、研修会等に参加している。

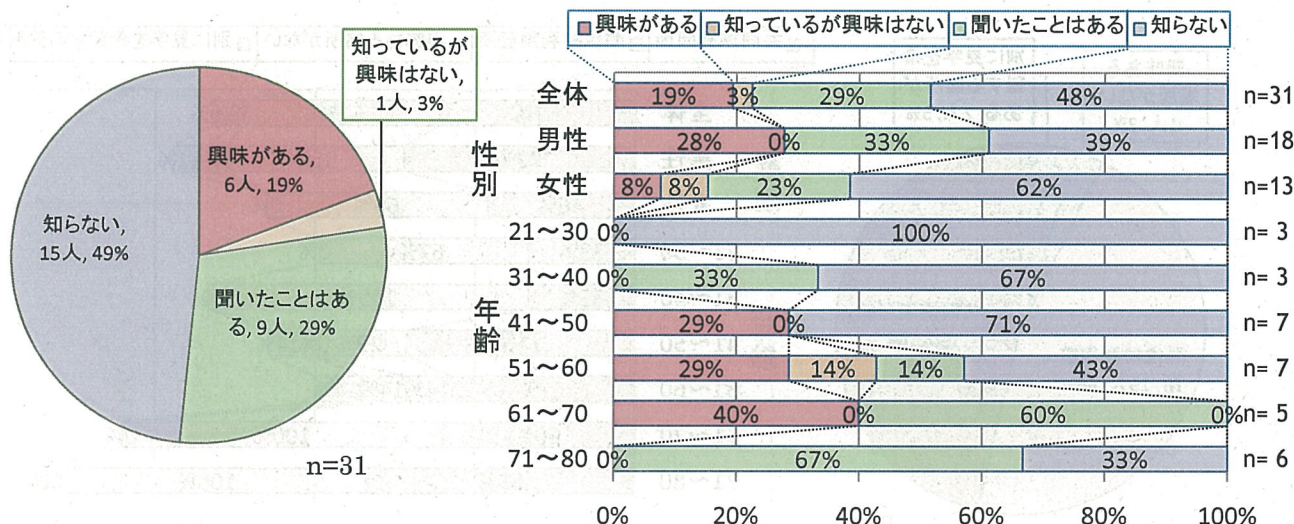
(結果)

(1) については、「よく知っている」「ある程度知っている」「聞いたことがある」が 17 人 (55%)、「知らない」が 14 人 (45%) でした。年齢別では、51~80 才が各層で 60% 以上認知されていましたが、21~30 才の年齢層は、全く認知されていませんでした。

(2) については、「ホームページ・メールマガジン等」の広報活動にて知った方が 8 人 (50%)、「新聞・テレビ」が 6 人 (38%) でした。「知人等から聞いた」「研修会等に参加」は、それぞれ 1 人でした。

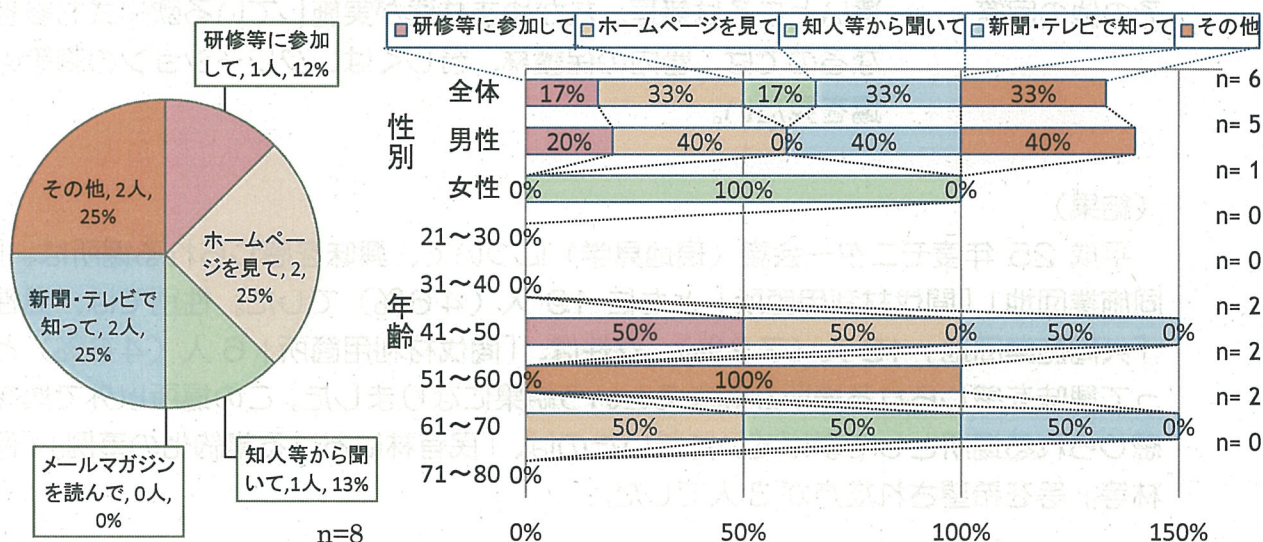
問3 森林・林業技術者の育成について

(1) 准フォレスター研修、林業専用道技術者研修について知っているか。



(2) どのように興味を抱くに至ったか。

(1) で「興味がある」と回答された方を対象。(複数回答)



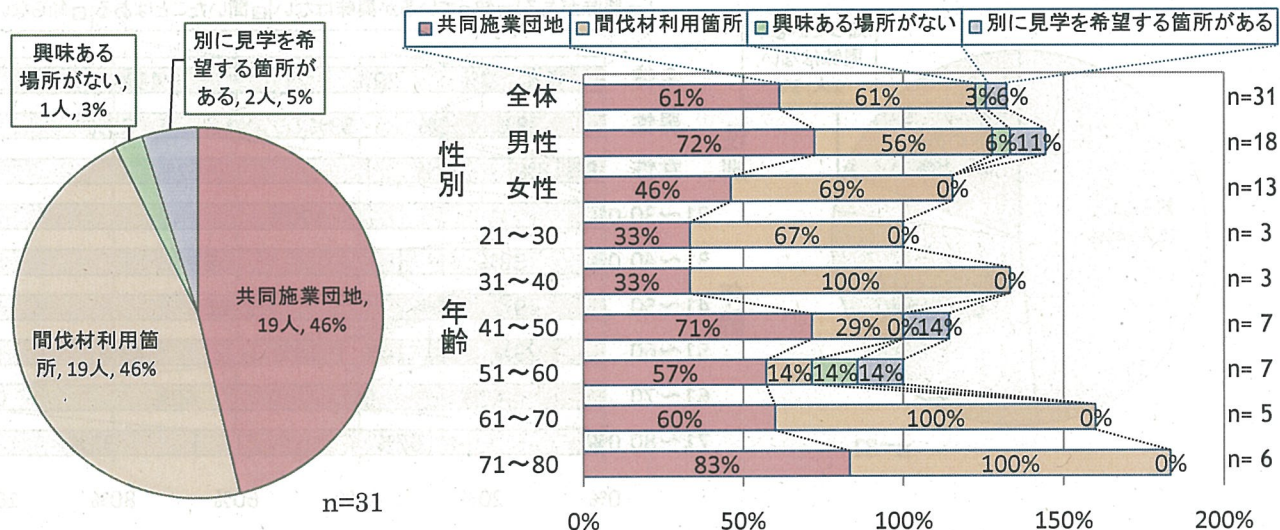
その他の回答・・・中部森林管理局発送資料 (RINYA、中部の森林)。

(結果)

(1) については、「興味がある」が6人(19%)、「知らない」が15人(49%)でした。年齢別では、41~70才の年齢層で興味がある方がそれぞれ2人でした。

(2) については、「ホームページ・中部の森林等」の広報活動によるが4人(50%)、「新聞・テレビ」が2人(25%)でした。「知人等から聞いた」「研修会等に参加した」は、それぞれ1人でした。

問4 平成25年度モニター会議（現地見学）について、興味を感じられる場所はどこですか。（複数回答）



その他の回答・・・遠いところは無理。たかやま林建が実施している欧州式も参考になるのでは。管内の保護林、若しくはレクリエーションの森等の現場を見たい。

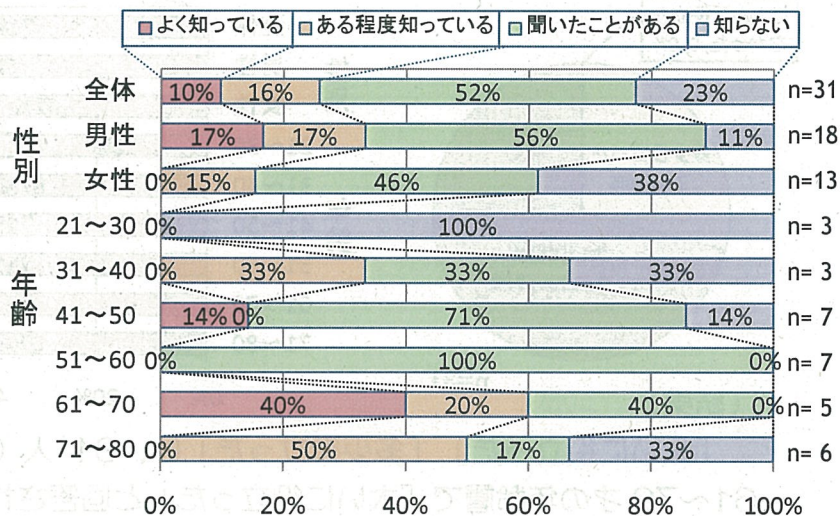
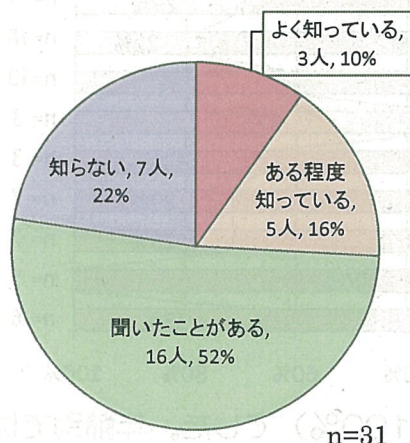
（結果）

平成25年度モニター会議（現地見学）について、興味を感じられる場所は、「共同施業団地」「間伐材利用箇所」とともに19人（46％）でした。性別では、男性が「共同施業団地」13人（72％）、女性は、「間伐材利用箇所」6人（46％）となって興味を感じられる場所が異なるという結果になりました。この場所以外で興味を感じられる場所として挙げていただいたのは、「民有林における集約化の事例」「保護林等」等を希望された方が3人でした。

保護林など優れた自然環境を有する森林の維持・保存について

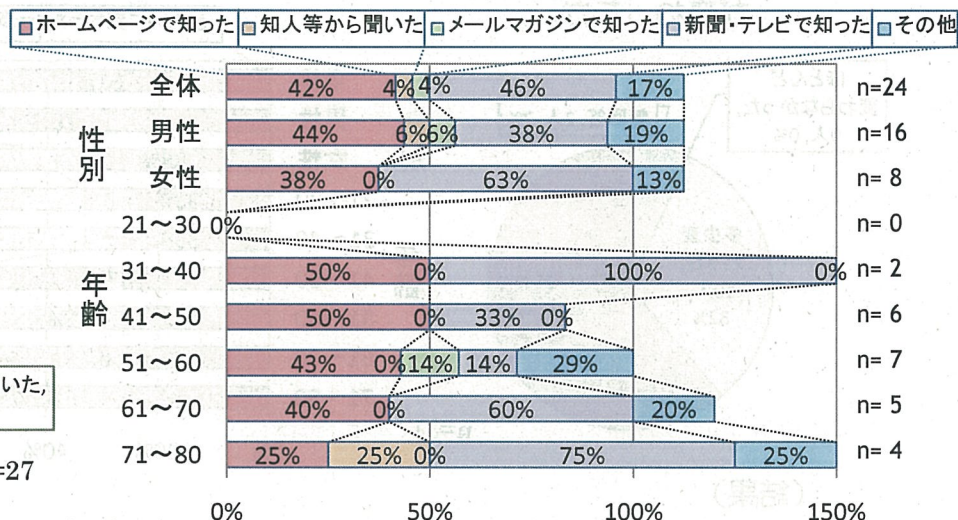
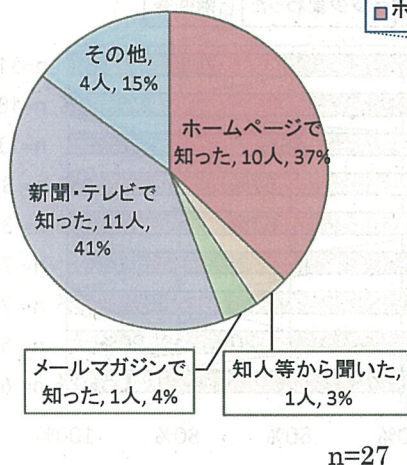
問5 保護林の設定及び保全・管理の推進について

(1) 国有林の保護林について知っているか。



(2) どのような方法で知ったか。

(1) で「よく知っている」、「ある程度知っている」、「聞いたことがある」と回答された方と回答された方を対象。(複数回答)



その他の回答・・・中部森林管理局発送資料 (RINYA、中部の森林)。

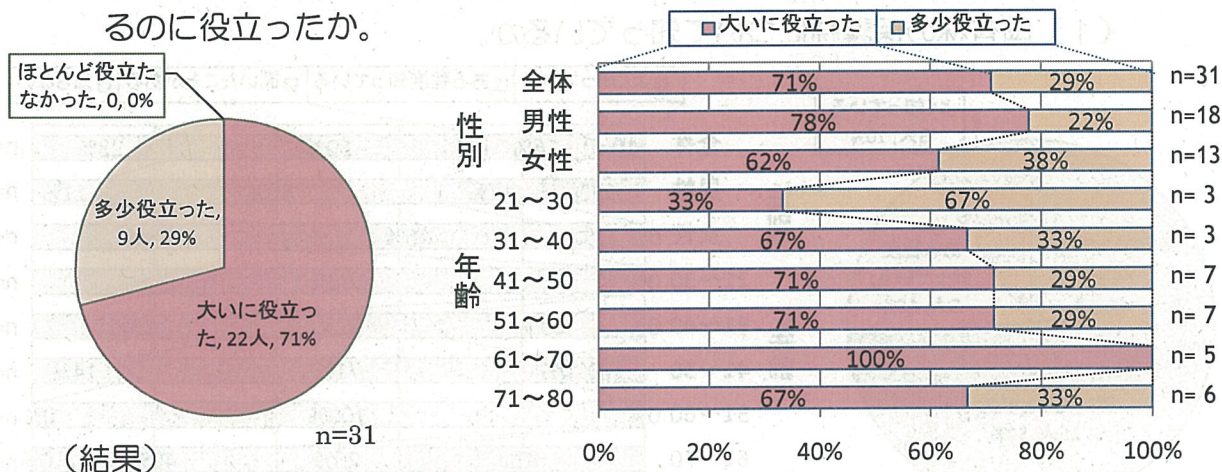
(結果)

(1) については、「よく知っている」「ある程度知っている」「聞いたことがある」が、24人(78%)でした。「知らない」は7人(22%)でした。多くの方に認知されていることが分かりました。年齢別では、51～70才の年齢層が全て認知していただきましたが、21～30才の年齢層は、全く認知されていません。

(2) については、「ホームページ・メールマガジン等」の広報活動にて知っている方が15人(56%)、「新聞・テレビ」が11人(41%)でした。「知人等から聞いた」は、1人でした。

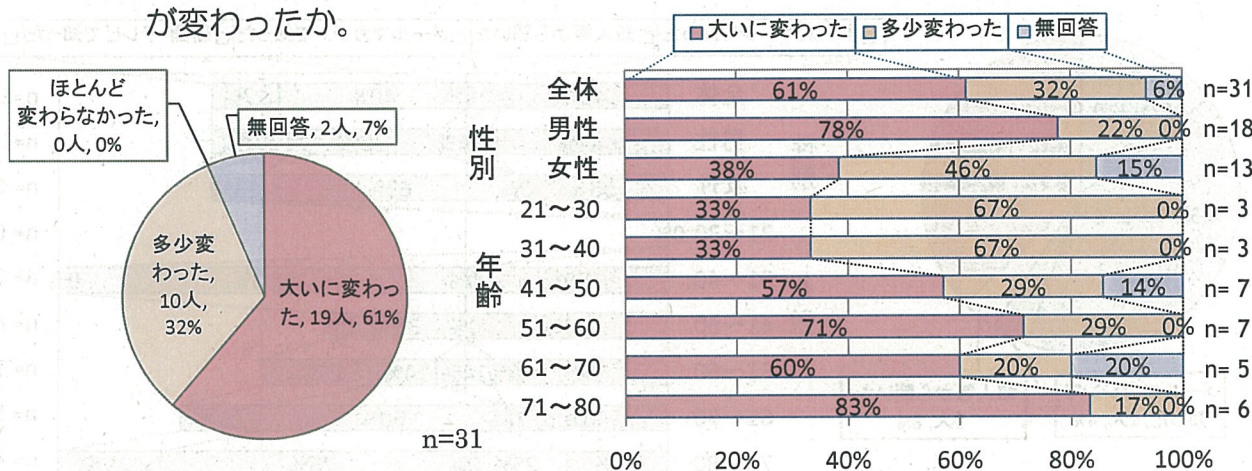
国有林モニター活動について

問6 これまでの国有林モニター活動は、森林・林業及び国有林について理解を深めるのに役立ったか。



「大いに役立った」「多少役立った」は、31人（100%）でした。年齢別では、61～70才の年齢層で「大いに役立った」と回答された方は100%でした。

問7 国有林モニター活動に参加されて森林・林業及び国有林に対する意識（関心）が変わったか。



「大いに変わった」「多少変わった」が29人（94%）でした。性別では、男性が100%、年齢別では、41～50才、61～70才の年齢層以外は、全て100%でした。

問8 ご意見ご要望など（一部抜粋）

- ・ 林業人口が減少する中で、如何に効率良く森林・林業再生プランを進めるか。やはり、市民の力をどんどん取り込んでゆくべきと考えます。
- ・ 低コスト・高効率作業システムの普及定着について、現地検討会に、地方自治体や林業事業体がどのくらい参加しているのか。また、目標値とかがあるのか。普及定着にあたり、問題点はあるのか。
- ・ モニターになって毎月林野庁から送付される「RINYA」と中部森林管理局の「中部の森」は非常に有効な情報源になっており、勉強させていただき感謝しています。
- ・ 森林モニターをやらせていただいていることで林業などに関する記事や TV 番組などがあるととても興味をひかれるようになりました。長野県は80%が森林面積とのことですが豊かな森林を後世に残していく為の活動、事業にこれからも目を離さず、注視、応援していきたいと思います。
- ・ 農林水産省から示された『森林・林業再生プラン』に係わる指針に基づき、様々な取り組みが展開されているということは理解出来るのですが、目標達成の道筋が良くわかりません。例えば、林業の再生には、人工林の間伐等のコストを下げ生産性を向上させることが重要とありますが、どのようなPDCAをまわして到達するのか簡単に教えていただけると有難い。
- ・ このモニター制度は、私にとっては新しいものに目を向けるととても良い機会であり、新しいことを知る喜びも味わい感謝いたしておりますが、このモニター制度がどのように役立ち活用されているのかお教えいただければと思います。
- ・ 今まで耳で入った知識や読んだ知識だけで考え判断してきましたが、現地を見学させていただいて本当に良くわかりました。国有林だけにとどまらず、日本の山の状態は大変ですね。
- ・ 林業事業で取り組んでいる内容など広く一般市民にPRし、現状理解と国有林の今後のあり方等について関心を持たせる工夫や努力をしてほしい。
- ・ 一般市民は比較的関心がない。仲間に話すと初めて聞いた、知ったという人ばかりです。
- ・ テレビやインターネットなどにおいても木材自給率を50%に向けた取り組みについて紹介されているが、本当の意味での国産材をみんなが利用できるようになっていない為、思ったより使用されていないのが残念であります。川上側では低コストで搬出し努力している姿を感じますが川下側がうまく回っていないように思います。そのような中での人材（フォレスター等）の活用が急がねばならないのではないのでしょうか。
- ・ 管理局の取組や管理経営のその後の経過や状況（又は現状）を知りたいです。また、管理局内での各地域の行いをわかりやすい内容で知りたいです。
- ・ 余り生活との関わりが少ない国有林。これまで、多くの情報に接することができ、改めて、国有林のあり方を認識するようになった。大切な国民の財産であり、環

境を含めて、多くの国民が参加し、議論する必要を強く感じた。自らも、国有林のあり方を情報発信したい。

- ・ 毎月、送られてくる雑誌や HP をみて、勉強させていただいています。まず、関心をもってもらえることが大切です。そのためには、PR を工夫していく、テレビや新聞などで宣伝をしていくといいと思います。
- ・ 国有林モニターになって、ほとんど知らなかった国有林のことが少しずつわかってきました。国有林の保護などは、まず付近の住民に実態を知ってもらうことだと思います。
- ・ 木質バイオマスの利活用促進について、都会ではペレットストーブ・薪ストーブから出る煙(?)が原因で近隣からコンプレが発生しているという話がありました。私はそのようなストーブを使った経験はなく、又田舎に暮らし近隣と離れていますので、この話を良く理解できません。実際には煙突から煙がどれほど出るのでしょうか？ これは不完全燃焼なのか、機器が原因なのか、それとも燃焼効率の問題なのですか？ このような原因で木質系燃料ストーブ普及が後退するようでは残念です。

まとめ

今回のアンケートでは、森林・林業再生に向けた取組、保護林など優れた自然環境を有する森林の維持・保存の取組、国有林モニター制度等について幅広いご意見をいただきました。

森林・林業再生に向けた取組について低コスト・高効率作業システムの現地検討会、森林共同施業団地の設定、准フォレスター研修等の取組は、ほとんど一般の方に知られていないとの回答が多く寄せられました。

また、これらの取組に興味を持たれた方の情報入手源は、ホームページ等の広報活動によるウエートが高いことも分かりました。

なお、来年度の現地見学会の検討箇所として共同施業団地、間伐材利用箇所の見学に興味を感じられているという感想を多くいただきました。

さらに、モニターの皆様からは、国有林の取組について PR を工夫した宣伝等を行ってほしいという意見・要望もいただきました。

中部森林管理局では、引き続き中部森林管理局の取組等に理解を深めていただけるよう宣伝・広報等に努めるとともに、今後も皆様からのご意見の把握に努め、皆様の貴重なご意見を参考にしながら、業務の改善を進めて参ります。